

こどもにすすめたい本 2021



『かしたつもり × もらったつもり』
かさいまり／さく 北村裕花／え
くもん出版

山梨県内の図書館員が、昨年1年間に出版された図書の中から
「こどもにすすめたい本」110冊を選びました。

山 梨 県 立 図 書 館
山 梨 県 公 共 図 書 館 協 会

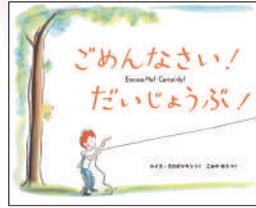
幼児向け



『おにぎりをつくる』

高山なおみ／文 長野陽一／写真
ブロンズ新社 ¥1,200 (税別)

親の帰りを待っていてお腹がすいた時、子どもが一人でも「いのちの玉」のおにぎりを作って食べることができるように解説している。お米の研ぎ方から、炊き方、蒸らし方、塩のつけ方、握り方まで、手順を写真で一つ一つ丁寧に紹介。



『ごめんなさい! だいじょうぶ!』

ルイス・スロポドキン／さく こみやゆう／やく
出版ワークス ¥1,600 (税別)

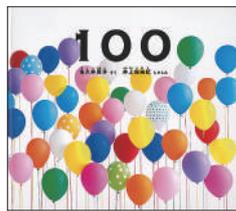
「ごめんなさい」が言えない4歳の男の子が主人公。おまわりさんに教えられ、まず動物たちに「ごめんなさい」と言うけれど、誰も「だいじょうぶだよ」と返してくれない。そこで、出会った人たちに言うてみる…。思いやりの心を育む絵本。



『つるかめつるかめ』

中脇初枝／文 あずみ虫／絵
あすなろ書房 ¥1,200 (税別)

雷がゴロゴロ鳴ったら、雷除けに「くわばらくわばら」。災害や病氣、身近に起こる嫌なこと…。自分ではどうしようもない時にそっと唱える、昔からのおまじないを紹介。どきどきしたり、不安な時、励ましてくれるお守りのような絵本。



『100』

名久井直子／さく 井上佐由紀／しゃしん
福音館書店 ¥900 (税別)

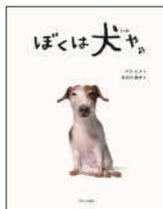
1と100を使い、数えて遊べる楽しい絵本。風船、積み木、金太郎飴、スーパーボールなど子どもたちに身近なものが、1の場合と100の場合を写した鮮やかな写真で現れる。本当に100あるかどうかは、数えてみよう。



『ふーってして』

松田奈那子／作
KADOKAWA ¥1,200 (税別)

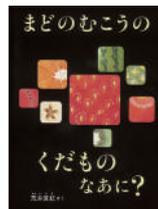
黄色の色水をぼとりと垂らして、ふーっと吹くと太陽が現れ、緑色の色水をぼとりと垂らして、ふーっと吹くと草が生える。ページをめくると息を吹きかけた色水がどんな風に変化するの、一緒に想像しながら読み聞かせをすると楽しい絵本。



『ぼくは犬や』

ペク・ヒナ／作 長谷川義史／訳
ブロンズ新社 ¥1,400 (税別)

粘土人形たちの躍動感ある表情がすばらしい絵本。犬のグスリの何でもない日常が犬目線で生き生きと描かれ、関西弁のセリフがとても楽しい。ラストでは、一緒に暮らす少年ドンドンの成長に、胸が熱くなる。



『まどのむこうのくだものななに?』

荒井真紀／さく
福音館書店 ¥1,100 (税別)

絵本には黒一色で次ページが少し見える窓がある。真ん中の窓の向こうにいちご、メロン、すいか、みかんなど果物の外観、その次に断面図がページ一杯に鮮やかに描かれている。「これは何かな?」とお話しながら楽しめる食べ物絵本。



『みんなでねんね』

中川ひろたか／文 まるやまあやこ／絵
光村教育図書 ¥1,000 (税別)

着替えをして、歯磨きをして……とねんねまでの準備が描かれている絵本。準備の最後には絵本の時間もすっかりあるので、眠る前の読み聞かせにもぴったり。お家でもこの本のように準備をして、ねんねの時間を迎えてみてはいかが?

その他のおすすめの本

『ありがとう、アーモ!』

オーグ・モーラ／文・絵 三原泉／訳 鈴木出版 ¥1,500 (税別)

『おいかけてこでわらべうた』

つきおかようた／文・絵 成美堂出版 ¥1,100 (税別)

『こちょこちょこちょ』

日隈みさき／さく エンブックス ¥1,200 (税別)

『スキップスキップ』

あまんきみこ／作 黒井健／絵 ひさかたチャイルド ¥1,300 (税別)

『どうぶつクッキー』

彦坂有紀、もりといずみ／作・絵 学研プラス ¥1,000 (税別)

『どてっ』

田口麻由／作 布川愛子／絵 エンブックス ¥1,200 (税別)

『ねえねえあのね』

しもかわらゆみ／作 講談社 ¥1,300 (税別)

『ねられんねられんかぼちゃのこ』

やぎゆうげんいちろう／さく 福音館書店 ¥900 (税別)

『はかせのふしぎなプール』

中村至男／さく 福音館書店 ¥900 (税別)

『ばんそうこうくださいな』

矢野アケミ／作 WAVE出版 ¥1,200 (税別)

『ひとはなくもの』

みやのすみれ／作 やべみつりのり／絵 こぐま社 ¥1,200 (税別)

『まんぷくよこちょう』

なかざわくみこ／作 文溪堂 ¥1,500 (税別)



小学生（低学年）向け



『あいちゃんのひみつ』

竹山美奈子／取材・文 えがしらみちこ／絵 玉井邦夫／監修
岩崎書店 ￥1,600（税別）

ダウン症をもつあいちゃんのママは、転校先のクラスメイトに、障害のことやあいちゃんの感じている気持ちを手紙で伝える。あいちゃんのもつ周りと異なる特徴が易しい言葉で丁寧に描かれる。「違い」を理解することの大切さがわかるお話。



『かしたつもり×もらったつもり』

がさいまり／さく 北村裕花／え
くもん出版 ￥1,400（税別）

れんは、大事な恐竜図鑑を友達のだいちに貸してあげた。けれど、工事の音に遮られ、だいちはれんが「あげる」と言ったと勘違い。貸したつもり、もらったつもりの二人の仲は険悪に。自分たちで解決し仲直りするまでの成長を描いた絵本。



『こたつ』

麻生知子／作
福音館書店 ￥1,300（税別）

おせち料理の準備や掃除をしたり、年賀状を書いたり、年越しそばを食べたり…。ある家族の大きみそから元日までを、こたつの真上から描いたユニークな本。大人にとっては懐かしい雰囲気、子どもと一緒に楽しみたい。



『このかみなあに？』

谷内つねお／さく
福音館書店 ￥1,500（税別）

トイレットペーパーは、色々な事ができる。転がすとすぐく伸びる。柔らかい紙ながら重ねると、卵を落としてもふんわり受け止めて割れない。よじると強くなる。水をたくさん吸う。お尻の為に出来たすばらしい紙のお話。



『そのときがくるくる』

すずきみえ／作 くすはら順子／絵
文研出版 ￥1,200（税別）

ナスが苦手なたくま。給食も残していたが、夏休みにおじいちゃんと言った「いつかきつと、そのときがくる」の一言に少し意識が変わる。たくまがナスをおいしく食べられる時はいつ来るのか。苦手を克服する一歩が描かれたお話。



『月のふしぎ』

いしがきわたる／え おおぬまたかし／かんしゅう
マイルスタッフ ￥1,500（税別）

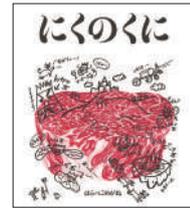
いつもは見慣れていてあまり注意を払うことのない“月”。満月、三日月、新月と形を変えていくさまはよく見ると不思議。そんな月のことを色鮮やかな絵とともに説明している。今夜は月を見ようと思わせる美しい絵本。



『梨の子ペリーナ』

イタロ・カルヴィーノ／再話 酒井駒子／絵 関口英子／訳
B L出版 ￥1,600（税別）

梨の収穫不足を補うため、梨と共に宮殿に届けられた少女ペリーナ。王子との仲を嫉妬され、難題を押し付けられるが、梨の木に守られ、持ち前の優しさで勇敢さで見事に解決。イタリアの風土と物語の幻想的な雰囲気を美しい絵が引き立てる。



『にくのくに』

はらぺこめがね／作
教育画劇 ￥1,300（税別）

肉の国の一番の王は誰？ 王たちが、我こそ一番！と自慢の肉料理を披露する。見開きで描かれた肉料理に圧倒され、食べた時のイメージが頭の中に浮かぶ。きつと肉料理のどれかを食べたくなること間違いなし。霜降り肉の表紙も楽しい。

その他のおすすめの本

『カールはなにをしているの？』

デボラ・フリードマン／作 よしいかずみ／訳 B L出版 ￥1,500（税別）

『ごくと星のハーモニカ』

赤羽じゅんこ／作 小池アミゴ／絵 フレーベル館 ￥1,100（税別）

『こんにちは！わたしのえ』

はたこうしろう／作 ほるぶ出版 ￥1,400（税別）

『さくらがさくと』

とうごうなりさ／さく 福音館書店 ￥1,400（税別）

『どこからきたの？おべんとう』

鈴木まもる／作・絵 金の星社 ￥1,300（税別）

『はりねずみともぐらのふうせんりょう』

アリソン・アトリー／作 上條由美子／訳 東郷なりさ／絵 福音館書店 ￥1,100（税別）

『ぼくのとうさんわたしのおかあちゃん』

さくら文葉／作 フロネーシス桜蔭社 ￥1,200（税別）

『ぼくはおじいちゃんのおにいちゃん』

堀直子／作 田中六夫／絵 ポプラ社 ￥1,000（税別）

『まひるのけつとう』

マヌエル・マルソル／作 中川ひろたか／訳 光村教育図書 ￥1,600（税別）

『まほうのおまめ』

松本春野／文・絵 辰巳芳子／監修 文藝春秋 ￥1,500（税別）

『虫ガール』

ソフィア・スベンサー、マーガレット・マクナマラ／文 ケラスコエット／絵 福本友美子／訳 岩崎書店 ￥1,500（税別）

『山はしっている』

リビー・ウォルデン／作 リチャード・ジョーンズ／絵 横山和江／訳 鈴木出版 ￥1,500（税別）



小学生(中学年)向け



『あるヘラジカの物語』

星野道夫／原案 鈴木まもる／絵と文
あすなろ書房 ¥1,500 (税別)

互いの角をからませ骨になった2頭のヘラジカが裏表紙に写し出されている。何があったのか…。星野道夫の遺作である1枚の写真に触発され生まれた絵本。自然の中に営まれる生命という普遍的なテーマを語りかけてくる動物たちのドラマ。



『いたずらのすきなけんちくか』

安藤忠雄／原作 はたこうしろう／絵
小学館 ¥1,600 (税別)

「こども本の森」にやってきたりょうたとりさの兄妹は、怪しいおじさんに出会う。おじさんはこの建物を設計した建築家で、建物に仕込んだいたずらを二人に教えてくれる。建築について子どもにわかりやすく伝える絵本。



『つれてこられただけなのに』

小宮輝之／監修 有沢重雄／構成・文 今井桂三、むらもとちひろ、ウエタケヨーコ、サトウマサノリ／絵 偕成社 ¥1,000 (税別)

外来生物が日本に来た理由をユーモラスに紹介。外来生物というと「悪者」と考えがちだが、連れてこられたのは食用、観賞用、緑化など様々な人間の都合から。彼らの言い分を知ると、外来生物の抱えている気持ちに分かるかもしれない。



『もしもトイレがなかったら』

加藤篤／著
少年写真新聞社 ¥1,600 (税別)

トイレの成り立ちや災害時のトイレの種類、環境問題とトイレの変化について書かれている。また、うちの正体や排泄の大切さ、新型コロナウイルス感染症を防ぐトイレの使い方にも触れている。トイレの大切さを気づかせてくれる一冊。



『やとのいえ』

八尾慶次／作
偕成社 ¥1,800 (税別)

「やと」とは、なだらかな丘にはさまれた浅い谷のこと。モデルになった多摩丘陵の「やと」では、昔から人々が田んぼや畑を切り開いて暮らしてきた。一軒の農家とその家族の150年の営みを、道端の十六羅漢さんの視点で描く。



『りんごだんだん』

小川忠博／写真と文
あすなろ書房 ¥1,300 (税別)

346日間、ひとつのりんごを見つめ続け、その変容していくさまをじっくり観察した一冊。ラストの変わり果てたりんごの姿は、まさに“土に還る”という状態を表している。最後まで目が離せない驚愕の写真絵本。



『ルドルフとノラねこブッチー』

齊藤洋／作 杉浦範茂／絵
講談社 ¥1,500 (税別)

ルドルフシリーズ第5弾はノラ猫ブッチーの元飼主探し。冒険の舞台は甲府で、県民に馴染みがある場所や歴史が登場。教養もあり博識のイッパイアッテナが、今回はまたカッコよすぎる。ルドルフと仲間の猫の思いやりある関係も心地よい。



『わたしたちのカメムシずかん』

鈴木海花／文 はたこうしろう／絵
福音館書店 ¥1,300 (税別)

岩手県の葛巻町で実際にあった話を基にした絵本。この町では毎年、大量のカメムシが発生し、人々を困らせていた。小学校の校長先生は朝礼でカメムシ調べを提案する。最初は戸惑っていた子どもたちも、やがて調べるのが楽しくなり…。

その他のおすすめの本

『うちにカブトガニがやってきた！？』

石井里津子／文 松本麻希／絵 学研プラス ¥1,400 (税別)

『お蚕さんから糸と綿と』

大西暢夫／著 アリス館 ¥1,500 (税別)

『おじいちゃんとの最後の旅』

ウルフ・スタルク／作 キティ・クローザー／絵 菱木晃子／訳 徳間書店 ¥1,700 (税別)

『かじ屋と妖精たち』

脇明子／編訳 岩波書店 ¥840 (税別)

『神様のパッチワーク』

山本悦子／作 佐藤真紀子／絵 ポプラ社 ¥1,300 (税別)

『きみの声がききたくて』

オーウェン・コルファー／作 P.J. リンチ／絵 横山和江／訳 文研出版 ¥1,400 (税別)

『セイギのミカタ』

佐藤まどか／作 イシヤマアズサ／絵 フレーベル館 ¥1,300 (税別)

『7年目のランドセル』

内堀タケシ／写真・文 国土社 ¥2,000 (税別)

『俳句ステップ!』

おおぎやなぎちか／作 イシヤマアズサ／絵 佼成出版社 ¥1,300 (税別)

『はじまりはたき火』

まつむらゆりこ／作 小林マキ／絵 福音館書店 ¥1,400 (税別)

『プラスチックのうみ』

ミシェル・ロード／作 ジュリア・プラットマン／絵 川上拓土／訳 磯辺篤彦／監修 小学館 ¥1,500 (税別)

『わたしたちの家が火事です』

ジャネット・ウィンター／文・絵 福本友美子／訳 鈴木出版 ¥1,500 (税別)

小学生(高学年)向け



『かけはし』

中川なをみ/作
新日本出版社 ¥1,600 (税別)

山梨県甲村(今の北杜市)に生まれ、日本統治下の朝鮮に渡り、その風土や民族を優しい眼差しで見つめ愛した浅川巧。ナショナリズムが叫ばれる分断の時代の今だからこそ見直されるべき彼の生き方を綴った物語。



『死について考える本』

メリー=エレン・ウィルクックス/作 おおつかのりこ/訳
あかね書房 ¥3,500 (税別)

「どうしてわたしたちは死ぬのか?」「死んだらどうなるのか?」死について自然科学や文化、宗教などの面から考察する。死について考えることは、自分の生と向き合うことに繋がる。死が身近ではない子どもたちに、ぜひ読んでほしい一冊。



『チェンジ!』

越智貴雄/著
くもん出版 ¥1,500 (税別)

著者のカメラとの出会いから、パラアスリートを撮り続けるに至る現在までのお話。パラアスリートへの尊敬や仕事への情熱がそのまま伝わってくる。物事に真摯に向き合うことの大切さを学べる一冊。次のパラリンピック……見たくなるはず。



『バウムクーヘンとヒロシマ』

巢山ひろみ/著 銀杏早苗/絵
くもん出版 ¥1,400 (税別)

バウムクーヘン作りのため、広島の似島へ行った颯太。そこでバウムクーヘンが日本に伝来した歴史を学び、その裏には辛く悲しい出来事があったことを知る。戦争によって捕虜となったドイツ人ユーハイムと広島の似島の、事実を元にした物語。



『ハナコの愛したふたつの国』

シンシア・カドハタ/作 もりうちすみこ/訳
小学館 ¥1,600 (税別)

終戦後、アメリカから日本に帰国せざるを得なかった日系人一家の少女ハナコの目を通して描いた作品。広島の似島の惨状や戦争孤児の現実を見、困窮した生活の中で生き抜く力を身につけていく。当時日系人が置かれた厳しい状況を知ることできる。



『パワーブック』

ロクサーヌ・ゲイ、クリア・サンダース/他著 水島ぼぎい/訳
東京書籍 ¥1,400 (税別)

普段は気にしてなくても私たちを取り巻く日常にはいろんな「力」がある。力は私たちの生活に影響を与える。「言葉の力」「お金の力」など様々な種類の力の良い使い方や悪い使い方を紹介した本。



『ブラックホールの飼い方』

ミシェル・クエヴァス/作 杉田七重/訳
小学館 ¥1,500 (税別)

ステラは帰り道で得体の知れないモノに後をつけられる。それはブラックホールだった。パパの死を悲しむ彼女はブラックホールに思い出の品を食べさせ、記憶や事実を消そうとする。だが、最後には自分にとりかけがえのない思い出だと知る。



『ホントに食べる?世界をすくう虫のすべて』

内山昭一/監修
文研出版 ¥3,600 (税別)

児童向けにこれだけ網羅した「昆虫食」の本があるなんて!採取から調理法、日本や世界の昆虫食、栄養価や繁殖のことまで、その内容には驚きの連続。世界の食糧事情を考えると、昆虫を当たり前に食べる時代になるかもしれない。

その他のおすすめの本

『あおいの世界』

花里真希/著 中島梨絵/装画 講談社 ¥1,400 (税別)

『朝顔のハガキ』

山下みゆき/作 ゆの/絵 朝日学生新聞社 ¥1,200 (税別)

『あの湖のあの家におきたこと』

トーマス・ハーディング/文 ブリッタ・テッケントラップ/絵 落合恵子/訳 クレヨンハウス ¥1,800 (税別)

『おいて、アラスカ!』

アンナ・ウォルツ/作 野坂悦子/訳 フレーベル館 ¥1,400 (税別)

『風のことは空のことは』

長田弘/詩 いせひでこ/絵 講談社 ¥1,600 (税別)

『悲しいけど、青空の日』

シュリン・ホームマイヤー/文・絵 田野中恭子/訳 サウザンブックス社 ¥2,400 (税別)

『こどもSDGs』

秋山宏次郎/監修 パウンド/著 カンゼン ¥1,300 (税別)

『さかな博士のレアうま魚図鑑』

伊藤柚貴/著 日東書院本社 ¥1,500 (税別)

『スイマー』

高田由紀子/著 結布/絵 ポプラ社 ¥1,500 (税別)

『囚われのアマル』

アイシャ・サイード/作 相良倫子/訳 さ・え・ら書房 ¥1,600 (税別)

『ぼくたちの緑の星』

小手鞠るい/作 片山若子/絵 童心社 ¥1,300 (税別)

『モヤモヤそうだんクリニック』

池谷裕二/文 ヨシタケジンスケ/絵 NHK出版 ¥1,200 (税別)



中学生・高校生向け



『赤毛証明』
光丘真理／作

くもん出版 ¥1,300 (税別)

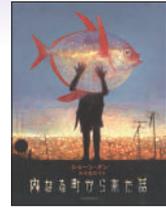
生まれつき髪が茶色いめくは、生徒手帳に押された「赤毛証明」という赤いはんこが普通ではないと言われているようで気に入らない。自分は普通ではないのか、普通とは何か。様々な境遇の人々との対話を通し、自分自身を見つめていく。



ウイズ ユー
『with you』

濱野京子／作 中田いくみ／装画・挿画
くもん出版 ¥1,300 (税別)

高校受験を控える悠人は、ランニングの途中、寂しげな面持ちの朱音に気づき声をかけた。一つ年下の朱音は介護と家事を担うヤングケアラーだった。恋愛物語の中に互いに抱える家庭の事情が見える。社会的な問題を考えるきっかけになる作品。



『内なる町から来た話』

ショーン・タン／著 岸本佐知子／訳
河出書房新社 ¥2,900 (税別)

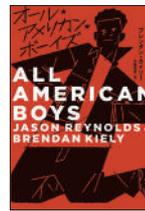
空を泳ぐ魚、アパートに住むブタ、ハイウェイを駆ける馬、人間を訴えるクマ…不思議な動物たちと人間が織りなす、25のシュールな物語。油彩で描かれた挿絵の数々が、想像力をかき立てる。



『王の祭り』
小川英子／著

ゴブリン書房 ¥1,500 (税別)

舞台は、16世紀のイングランドと日本。登場人物は、同じ時代に生きた織田信長とエリザベス一世。そして、シェイクスピアと出雲の阿国を思わせる少年と少女。為政者二人と、芸に生きた二人が時空を超えて出会う壮大なファンタジー作品。



『オール★アメリカン★ボーイズ』

ジェイソン・レノルズ、ブレندان・カイリー／著 中野怜奈／訳
偕成社 ¥1,500 (税別)

ある日、黒人の高校生ラシャドは万引き犯と疑われ、白人警官から殴られ入院した。事件の動画が拡散し、高校で抗議デモが計画されると、黒人と白人の対立が激しくなり…。米国で広がるブラック・ライブズ・マター運動を題材にした物語。



『公務員という仕事』
村木厚子／著

筑摩書房 ¥860 (税別)

男女雇用機会均等法や障害者雇用など社会を変革する取り組みに真摯な姿勢で挑み続けた彼女だからこそ語る「公務員の矜持」。逆境に屈することなく事務次官まで務めた著者の「パッシングからは何も生まれない」という言葉が胸に響く。



『この世界を知るための大事な質問』
野澤巨伸／著

宝島社 ¥1,500 (税別)

日本ユニセフ協会の現地視察に同行取材したカメラマンが、8カ国の写真を選び作成した本。各国に暮らす子どもたちの現実…干ばつや飢え、人身売買、児童労働、難民、HIV/エイズの感染などを、Q&A形式で学ぶことができる。



『コロナの時代の僕ら』

パオロ・ジョルダノ／著 飯田亮介／訳
早川書房 ¥1,300 (税別)

2020年2月末から3月頭にかけて、新型コロナウイルス感染が急拡大したイタリア。暮る人々の不安、哀しみ。混迷の中で紡がれた時代の記録。著者は災禍を克服した後もこの体験を胸に刻み、生き方を見直そうと説く。

その他のおすすめの本

『兄の名は、ジェシカ』

ジョン・ボイン／著 原田勝／訳 あすなろ書房 ¥1,500 (税別)

『イーブン』

村上しいこ／作 小学館 ¥1,400 (税別)

『ウルド昆虫記バッタを倒しにアフリカへ』

前野ウルド浩太郎／著 光文社 ¥1,800 (税別)

『紙の心』

エリーザ・ブリチェリ・グエッラ／作 長野徹／訳 岩波書店 ¥1,700 (税別)

『朔と新』

いとうみく／著 講談社 ¥1,500 (税別)

『12歳の少女が見つけたお金のしくみ』

泉美智子／著 水元さきの／漫画 モトロカ／イラスト 佐和隆光／監修 久谷理紗／原案 宝島社 ¥1,300 (税別)

『14歳の教室』

若松英輔／著 NHK出版 ¥1,300 (税別)



『サード・プレイス』

ささきあり／作 酒井以／絵
フレーベル館 ¥1,400 (税別)

「家でも学校でもない、ここはきみの第三の居場所〈サード・プレイス〉」学校や家庭とは繋がりのない、様々な年代の人と関わりを持つことによって、自分のやりたいことや、世界を広げるきっかけをつかむ。まさに中高生が主役!!なお話。



『少女のための海外の話』

三砂ちづる／著
ミツイパブリッシング ¥1,700 (税別)

豊富な海外生活体験を元に、女性目線で持ち物、異文化理解の必要性、非常時での対応方法など、海外に出る時に押さえておくべき多くの知恵が書かれている。留学や海外での就職、国際協力を夢見る少女たちの背中をそっと押ししてくれる内容。



『ずっと見つめていた』

森島いずみ／作 しらこ／絵
偕成社 ¥1,300 (税別)

中学1年生の越の家族は、化学物質過敏症を持つ妹のために、一家で南アルプス市に引っ越してきた。越は、慣れない田舎での生活や、少人数クラスの学校生活に奮闘する。南アルプス市の風景描写が多く、温かい空気を感じられる一冊。



『捨てられる食べものたち』

井出留美／著 matsu／絵
旬報社 ¥1,400 (税別)

毎日、大量の食べ物が捨てられている。「世界の9人に1人がいつもおなかをすかせて」いるのに…。なぜ、食品ロスが生じるのかを知り、減らすために自分たちができることは何か、行動するヒントを与えてくれる一冊。



『青春サプリ。自分がここにいる理由』

青木美帆、田中夕子、ささきあり、近江屋一朗、日比野森三／文 くじょう／絵
ポプラ社 ¥1,200 (税別)

実話を元に部活を紹介する「青春サプリ」シリーズに、山梨県立ひばりが丘高校うどん部が登場。毎日のうどん作りと吉田のうどんPR活動のハードさに、部活を辞めようか何度も迷った主人公の翼が、うどん部の店を出すまでの成長を描く。



『ハリネズミは月を見上げる』

あさのあつこ／著
新潮社 ¥1,450 (税別)

周りに合わせて高校生活を送る鈴美は、電車での痴漢騒ぎで同級生の菊池さんと知り合う。誰に対しても物怖じせず自分の意思をぶつけられる彼女に惹かれる鈴美だが…。性格が正反対の二人が互いに支え合い、乗り越えていく成長物語。



『美術館って、おもしろい!』

モラヴィア美術館／著 阿部賢一、須藤輝彦／訳
河出書房新社 ¥3,200 (税別)

チェコ共和国にあるモラヴィア美術館の館員らによって書かれた本。美術館の歴史、展覧会のつくり方、スタッフや来館する人々など様々な視点で説明されている。美術館の表と裏を知ることができ、実際に美術館に行きたくなる楽しい一冊。



『ワタシゴト』

中澤晶子／作 ささめやゆき／え
汐文社 ¥1,400 (税別)

広島原爆資料館でまっ黒になった弁当を見た俊介は、思い出した。母と喧嘩して自分が投げ捨て、アリがまっ黒にたかった弁当を。弁当を持っていた少年はどんな少年だったのか。被爆体験を自分や家族と結び付けて考え始めた中学生を描く短編集。

『てのひらに未来』

工藤純子／作 酒井以／画 くもん出版 ¥1,400 (税別)

『なぜ僕らは働くのか』

池上彰／監修 佳奈／漫画 モドロカ／画 学研プラス ¥1,500 (税別)

『ハジメテヒラク』

こまつあやこ／著 あわい／装画 講談社 ¥1,400 (税別)

『保健室経由、かねやま本館。』

松素めぐり／著 おとないちあき／装画・挿画 講談社 ¥1,400 (税別)

『ぼくだけのぶちまけ日記』

スーザン・ニールセン／作 長友恵子／訳 岩波書店 ¥1,700 (税別)

『無限の中心で』

まはら三桃／著 講談社 ¥1,400 (税別)

『夜フクロウとドッグフィッシュ』

ホリー・ゴールドバーク・スローン／作 メグ・ウォリツァー／作 三辺律子／訳 小学館 ¥1,500 (税別)

4月23日は「子ども読書の日」



こどもにすすめたい本 2021

令和3年3月31日

編集 山梨県立図書館 サービス課

山梨県公共図書館協会「こどもにすすめたい本」編集委員会

発行 山梨県立図書館 山梨県公共図書館協会

〒400-0024 山梨県甲府市北口 2-8-1

TEL 055-255-1040 FAX 055-255-1042

URL <https://www.lib.pref.yamanashi.jp/>

Eメール kodomo@lib.pref.yamanashi.jp

*当館ホームページ上からもこの冊子を見ることができます。

*本書掲載の記事、イラスト、写真等の無断転載を禁じます。

*本冊子は、教育機関（小学校、中学校、高校、特別支援学校）におけるプリントアウト、コピー、無料配布ができます。改変・切除などをご遠慮ください。

